

Monthly  
Company  
Magazine

**ONDO**

月刊 おんど

July 7月  
No.550 2023

**ウチヤ・サーモスタット** 株式会社  
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL : 048-955-4181

FAX : 048-956-1310

E-mail : info@uchiya.co.jp

## SDGs とグローバルコンパクトとの関係

令和5年6月20日

社長 清水 澄人

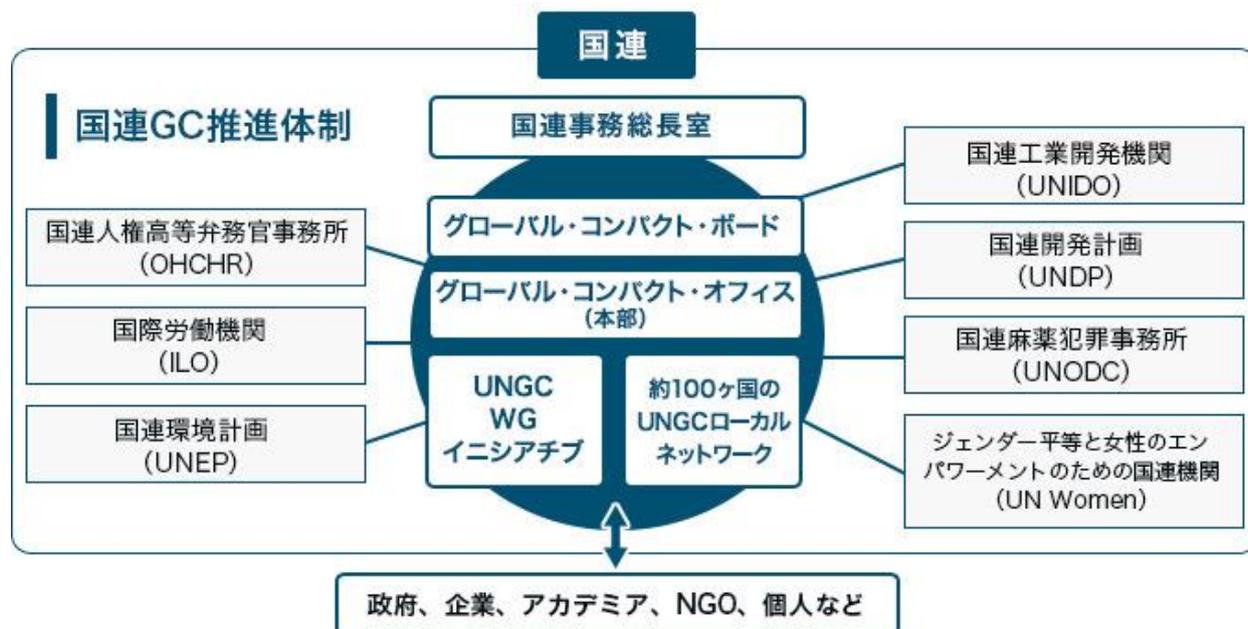
最近、欧州の顧客殿からコード・オブ・コンダクト(Code of Conduct 企業の行動規範・行動指針)と呼ばれるもので、このことを尊重する企業として国連グローバル・コンパクトに自主的な加盟を行なっていますかとの問い合わせが増えています。この関連では先に Dyson 本社(シンガポール)を訪問した際に気にされていましたので、飯塚部長が Dyson 社への登録を進めてはいますが、欧州の顧客殿からは調査した所、ウチヤ社は国連グローバル・コンパクトの企業加盟登録のリストに乗ってない、登録してないと弊社グループとの取引は制限され将来的には難しくなるとの話しなのです。ウチヤ社は積極的に国連が実行ターゲットを定めた SDGs を実践しています。グローバル・コンパクトの概念云々は特段意識もして来ませんでした。此の所の欧州企業からの問い合わせに些か困惑しています。そこで日本加盟企業のホームページを調査してみますと成程加盟している大企業が結構存在しています。



簡単に結論を書きますと、国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的なイニシアティブ(initiative 主導権から来る言葉で、企業の行動指針や原則を意味しています)とされています。即ち、国連グローバル・コンパクトに企業が賛同し自主的に参加する宣言となり、そして、その具体的な活動

がSDGsとなります。日本では多くの政府機関、地方公共団体、企業、民間活動団体や個人がSDGs活動を積極的に推進しています、ウチャ社も一緒懸命に意識して活動を行なって来ています。

然し乍ら、グローバル・コンパクトとへの参加宣言は遅れています、何故なら必要との認識がありません、いつの間にか形式的な順番が提唱されて、恰も、SDGsに余り積極的でない欧米に日本が遅れを取っているとの様相に逆転しています。まずはグローバル・コンパクトの加盟を登録して、具体的にはSDGsを推進する手順なのです。従って、ウチャ社は慌ててこの登録を急いで進めていますが無料参加ではなくて、毎年10万円位の参加費用が発生します。



国連グローバル・コンパクト(UNGC)では、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を企業が受諾し、支持し、遵守するよう求めています。

#### 人権

企業は、原則1：国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、原則2：自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

#### 労働基準

企業は、原則3：組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、原則4：あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、原則5：児童労働の実効的な廃止を支持し、原則6：雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

#### 環境

企業は、原則7：環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、原則8：環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、原則9：環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

## 腐敗防止

企業は、原則 10：強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

|      |   |  |
|------|---|--|
| 人権   |  | 原則 1: 人権擁護の支持と尊重<br>原則 2: 人権侵害への非加担  |
| 労働   |  | 原則 3: 結社の自由と団体交渉権の承認<br>原則 4: 強制労働の排除<br>原則 5: 児童労働の実効的な廃止<br>原則 6: 雇用と職業の差別撤廃 |
| 環境   |  | 原則 7: 環境問題の予防的アプローチ<br>原則 8: 環境に対する責任のイニシアティブ<br>原則 9: 環境にやさしい技術の開発と普及         |
| 腐敗防止 |  | 原則10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み  |

## 具体的な行動計画が SDGs

国連は、様々なパートナーと協力して SDGs を達成していこうとしています。そのため国連は、第 73 回国連総会において、SDGs の実行を目的として、「グローバルなパートナーシップに向けて：国連とすべての関連パートナーとの間の強化された協力への原則に基づくアプローチ」（決議番号 A/RES/73/254）という決議を 2018 年 12 月 20 日に行いました。

この決議の中では、SDGs の実行において重要な民間セクターの活動推進は、国連グローバル・コンパクトの役割であると記載されています。また、地域における民間セクターの SDGs の実行推進は、グローバル・コンパクトのローカル・ネットワークの役割であると記載されています。

さらに具体的に、ESG 経営、GC10 原則、サステナビリティ報告書、ジェンダー平等推進で、国連グローバル・コンパクトはリードする役割を担っていると記載されています。

さらに第 76 回国連総会において、国連グローバル・コンパクトが民間セクターを関与させる職務を有することを再確認した決議（決議番号 A/C.2/76/L.13/Rev.1）が 2021 年 12 月 17 日に行われました。

GCNJ は、この国連の決議文に記された責任を全うするために、日本で民間セクターが SDGs に取り組むように推進活動を行っています。



持続可能な開発目標（SDGs） 国連が提唱する、人権・労働・環境・腐敗防止に係る 10 原則 「国連持続可能な開発サミット」において、人間、地球および繁栄のための行動計画として採択された SDGs は、17 の目標と 169 のターゲットを掲げています。



以上

参考までに、当社の行動指針の項目 5 を下に示します（編集部）

5. 国連グローバルコンパクト 10 原則の実現に協力努力し、行動は常に世界に対応する。
- ① 国際的に宣言されている人権の保護を尊重する。
  - ② 自らが人権侵害に加担しない。
  - ③ 組合結成の自由と団体交渉の権利を保証する。
  - ④ あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持する。
  - ⑤ 児童労働の実効的な廃止を支持する。
  - ⑥ 雇用と職業に於ける差別の撤廃を支持する。
  - ⑦ 環境上の課題の原則的予防処置に協力する。
  - ⑧ 環境に関する責任を負担する。
  - ⑨ 環境に優しい技術の開発と普及に努力する。
  - ⑩ 強要と贈収賄を含むあらゆる不正・腐敗の防止に取り組む。

## 職場における創意工夫表彰の受賞

令和5年6月22日

資材総務部 菅井優香

2023年6月5日、職場における創意工夫表彰式へ出席してきました。

去年の9月に資材総務部の両澤主任と製造部の木津主任と提出した「サーモの同期性確認時の治具の改善」についてまとめた共同提案が埼玉県の発明協会に推薦していただくこととなり、令和5年度「職場における創意工夫表彰」を受賞することができました。

スーツを着て会社の一員として外出するのは3、4年ぶりのことだったので身が引き締まる思いの中会場まで向かい、同行していただいた

井ノ口主任と武田常務に見守られながら賞状の授与式が行われました。写真撮影は会長の菊池様と個々に行い、それぞれお祝いの言葉と今後の活躍にも期待していますとのお声かけをもらいました。



今回私が受賞した提案は、サーモスタットのチャタリング（同期性）確認方法の改善になります。

従来は目視でバイメタルの反転に異常が無いかを確認しており、1センチ未満の動きを見るために虫眼鏡を使用し覗き込むような姿勢で検査していました。前かがみ且つ目を凝らす状態が続くため長時間の作業は作業者の目と腰の負担になっていました。

そこでカメラで撮影したものをモニターに映し大画面で確認を行えればと考え、スライド可能なスタンドを設置しiPadを利用して大画面で検査ができるようになりました。従来と比べると約5倍の大きさでサーモを見ることができ、作動時の録画もできることで異常時の動きを上司や生産担当者と共有可能になりました。



【 左：熱板 右：今回作製した治具 】

また、導通 OFF から ON 状態に反転する動きを見る時にサーモを固定できる治具を作製しました。これにより反転時にサーモ全体が大きく動くことなくより安定した検査をできるようになりました。

少し前の話になりますが、4年程前にも提出した「サーマル温度測定データ保存方法の改善」の3名の共同提案が埼玉県の発明協会に推薦され、賞をいただいたことがあります。

その後文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞の受賞もすることができ、その時点では入社年数が足りず申請条件を満たしていなかったため代表者の石井さんが表彰を受けました。当時はコロナ禍ということもあり新型コロナ感染拡大防止等の理由で社内まで来社していただく形で表彰式を行い、共同提案者として出席させていただきました。

当時のことを思い返しますと、初めて大きな賞をいただけて自信に繋がりととても嬉しく思ったのを覚えています。

入社してから6年目になりますがこのような賞を2度も受賞できたことはとても光栄に思います。

この2つの提案の共通している点はどちらも共同提案であり、「相談しやすい周りの環境」であったことです。「三人寄れば文殊の知恵」のように私一人では実現不可能でした。提案者、実行者がそれぞれ足りない部分を補いながら「それぞれの視点から見る」ことによりできた提案だと思います。

また、どちらの提案も当時所属していた部署は違いますがいつでも疑問に思ったことを気軽に相談できる上司、先輩、後輩がいることはとても有り難いことであり、今回の結果に繋がったと思います。

皆さんも思ったことや気づいたことがあれば積極的に周りの人に話してみてください。些細な気づきが新しいアイデアや大きな成果に繋がるかもしれません。お読みいただきありがとうございました。

以上

